

職業移動からみた職業の類似性

JILPPT主任研究員 西澤 弘

世の中には実に多くの職業がある。公共職業安定所の職業紹介業務に使用される職業分類表をみると八九二の職業が設定され、その職業名索引には一万七〇〇以上の職業名が掲載されている。また、国勢調査用の職業分類索引には二万八〇〇以上の職業名が収録されている。

厚生労働省や総務省の職業分類では、仕事の類似性を重視して、このような膨大な数の職業や職業名を区分し体系を組み立てている。

類似性を判断する基準には、仕事の遂行に必要な知識・技能、生産される財や提供されるサービスの種類、仕事に使用する道具・機械器具・設備・原材料の種類、仕事に必要な資格・免許の種類などが用いられている。

職業相談や職業ガイダンスの場合では、仕事の類似性に関する情報が重要である。特定の職業と類似性が高い職業について情報を得ることは、職業選択の幅を広げるだけでなく、職業に対する理解を深めることにもつながるからである。

職業間の類似性を客観的に評価するために、評価対象の職業に同一の基準を適用する必要がある。しかし、現

行の厚生労働省や総務省の職業分類にはひとつの類似性基準ではなく、上述の通り様々な基準が採用され、それらを総合的に勘案して分類体系が構築されている。

そのため個別職業間の類似性や相違の程度は容易に把握しがたいのが現実である。

そこで、これまで職業の類似性指標としてほとんど取り上げられることになかった職業移動に着目し、その多寡を類似性の指標とみなして実際の移動データを分析した。

職業移動の多寡を類似性の指標とみなした場合、同一職業分野内での移動が多いほど、その分野は類似性の高い職業で構成され、逆に同一職業分野内での移動が少ないほど、その分野には異なる職業、あるいは他の職業分野と親近性の高い職業が含まれていると解釈されることになる。

職業移動のついで方

職業移動には、それをみる視点の違いによって流入と流出のふたつの流れがある(図表1)。流入とは現在の職業に視点を置いて、ひとつ前までのよ

うな職業に従事している人が入職してきたのかを表す。言わば、現在の職業に就いている人の、ひとつ前の職業における履歴である。

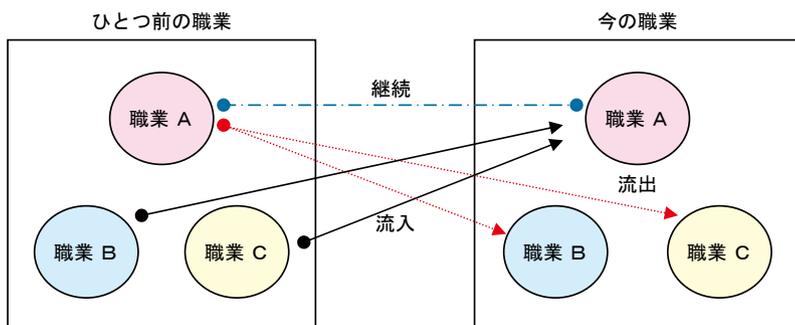
他方、流出とはひとつ前の職業に視点を置いて、移動した人が現在どの職業に就いているのかを表す。ひとつ前の職業に就いている人の、現在の職業における分布を表すことになる。

職業を変わる人がいる一方、変わらない人もいる。これを継続と呼ぶこととする。したがって職業移動には継続、流入、流出の三つの流れがある。

分析対象は、労働政策研究・研修機構が二〇〇八年・二〇〇九年にインターネット調査で収集した五万九千六百五十八人(回答者三〇人以上の五七八職業)の現職と前職に関するデータである。この五七八職業を厚生労働省の職業分類の体系にあわせて配列し、調査回答者の前職から現職への移動の流れを分析した。

その際、職業の枠組みには大・中・細分類の三段階の職業分類を使用し、大分類と中分類の項目は厚生労働省編職業分類の大・中分類項目を用いた。分析対象の五七八職業は厚生労働省編職業分類の細分類に該当する職業である。

図表1 職業移動における流入、流出、継続



(注) 実線は今の職業からみた職業移動(流入)、点線はひとつ前の職業からみた職業移動(流出)をそれぞれ表す。

る。
なお、紙幅の関係で以下には大分類と中分類の主な分析結果だけを紹介する。

同じ職業に従事している人

調査回答者の中でこれまでずっと同じ職業に従事している人は半数に満たない(四七・二%) (図表2)。過半の人は現在の職業と異なる職業に従事した経験がある。本節では、まず、どのような分野で継続率が高いのか(あるいは低いのか)を明らかにし、次に回答者の属性と継続率との関連について触れる。

継続率の高い職業、低い職業

大分類の中で特に継続率が高いのは、「保安の職業」(六六・八%)と「専門的・技術的職業」(五三・八%)である。これらの大分類では継続率が五〇%を超え、過半の人は同じ職業を続けている。

図表2 大分類別継続率

	調査回答者	継続者	継続率 (%)
専門的・技術的職業	21,018	11,315	53.8
事務的職業	5,112	2,180	42.6
販売の職業	5,269	2,168	41.1
サービスの職業	4,720	1,720	36.4
保安の職業	942	629	66.8
農林漁業の職業	849	302	35.6
生産工程の職業	8,559	3,941	46.1
輸送・機械運転の職業	1,372	568	41.4
建設・採掘の職業	1,655	788	47.6
運搬・清掃・包装等の職業	1,469	454	30.9
計	50,965	24,065	47.2

以下、これらの大分類の中分類、細分類を順にみてみよう。

保安の職業の中で継続率の高い中分類は、「自衛官」(八五・一%)と「司法警察職員」(七五・〇%)である。前者は自衛官、後者は警察官や海上保安官などの司法警察権を持つ公務員の中分類である。これらの職業における高い継続率は半ば当然予想できる。しかし保安の職業に含まれる細分類は必ずしも一様に継続率が高いわけではない。警備員(三五・〇%)や道路パトロール隊員(三〇・〇%)のように継続率が相対的に低い職業もある。

専門的・技術的職業の下位には二〇個の中分類が設定されている。それらの継続率が全体として高いというわけではなく、継続率は中分類によって大きく異なっている。特に継続率の高い中分類は、保健医療関係の職業(医師、歯科医師、獣医師、薬剤師)(八六・三%)、「医療従事者」(七六・五%)と鉱工業関係の「開発技術者」(七三・〇%)である。

保健医療関係の中分類はこれ以外に二項目あり、いずれの中分類も継続率が高く、その細分類も継続率が高い。技術者の中分類は、開発技術者だけではなく、「製造技術者」、「建築・土木・測量技術者」、「情報処理・通信技術者」も継続率が五〇%を超えている。

中分類によっては細分類レベルの職業に継続率の高いものと低いものが混在している。たとえば、「社会福祉の専門的職業」の保育士(六四・七%)とケアマネージャー(二〇・六%)、「経営・金融・保険の専門的職業」の公認会計士(六四・四%)とファイナンシャ

ルプランナー(二九・〇%)、「美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者」のファッションデザイナー(六七・三%)とクラフトデザイナー(一七・四%)などである。

一方、大分類の中で特に継続率が低いのは、「運搬・清掃・包装等の職業」(三〇・九%)、「農林漁業の職業」(三五・六%)、「サービスの職業」(三六・四%)である。これらの大分類では継続率がいずれも三〇%台に止まり、現在の職業と異なる職業経験を持つ人が六割を超えている。

次に、これらの大分類の中分類、細分類の中で特に継続率の低い職業をみてみよう。

運搬・清掃・包装等の職業の中で継続率がとりわけ低い中分類は「清掃の職業」(二二・五%)と「包装の職業」(二九・〇%)である。七割以上の人は現在の職業と異なる職業経験を持っている。

これらの中分類の中で継続率の低い細分類は、じんかい収集作業員(一一・三%)、産業廃棄物収集運搬作業員(二二・五%)、害虫防除作業員(二四・三%)、包装作業員(二九・〇%)などである。

中分類「運搬の職業」の継続率は上述の二つの中分類よりも高いが、それでも三三・三%に止まっている。その細分類の中でもっとも継続率が低いのはリサイクル品回収員(一一・三%)である。

農林漁業の職業では、中分類「農業の職業」の継続率(三三・九%)が他の二つの中分類に比べて相対的に低い。その細分類の中では、植木職

(二八・〇%)と稲作業者(二九・七%)の継続率が特に低い。

他方、中分類「漁業の職業」は相対的に継続率が高く、その細分類の沿岸漁業者(六一・一%)はこの大分類に含まれる細分類の中で飛び抜けて継続率が高い。

サービスの職業は大分類の中で継続率が三番目に低い項目である。その中で特に継続率の低い中分類は、「居住施設・ビル等の管理の職業」(二五・九%)と「家庭生活支援サービスの職業」(二六・五%)である。

これらの中分類に含まれる細分類の継続率は、寄宿舎・寮・マンション管理人が七・八%、家政婦が一六・五%、駐車場管理人が二四・二%である。

中分類「介護サービスの職業」では、施設介護の仕事(三五・〇%)のほうに訪問介護の仕事(二七・五%)よりも継続率が高い。

中分類「接客・給仕の職業」ではキャディ(二八・九%)、ホールスタッフ(三〇・七%)の継続率が低い。

これ以外の中分類に含まれる細分類の中では、リフレクソロジー(一〇・九%)、アロマセラピスト(一七・〇%)、カイロプラクター(二二・四%)、着物着付指導員(二二・一%)、エステティシャン(二四・二%)などの継続率が低い。

回答者属性と継続率

次に調査回答者の属性と継続率との関係を見てみよう。

性別との関係では、各職業の男性比率と継続率との間に正の相関がみられ、

男性比率の高い職業ほど継続率の高い職業の割合が大きい。

年齢と継続率との関連は総じて希薄であるが、中高年者比率が高い職業と若年者比率が高い職業を比較すると後者のほうが継続率の高い職業の割合が大きい。

学歴との関係では、各職業の大卒・大学院修了者比率と継続率との間に正の相関がみられた。大卒・大学院修了者比率の高い職業ほど継続率の高い職業の割合が大きい。

就業形態との関係では、各職業の常用雇用者比率と継続率との間に正の相関がみられ、常用雇用者比率が高い職業ほど継続率の高い職業の割合が大きい。

現職に流入してきた人

現在の職業に視点を据えて、ひとつ前の職業から流入してきた人を大分類レベルで整理したものが図表3の左側の表である。

大分類間の流入

流入はその方向と量によって四つの類型に分類できる。

第一は流入元が限定的であって、その流入量が多いケースである。「専門的・技術的職業」と「事務的職業」がこれに該当する。これらの大分類には流入率一〇%以上の大分類がそれぞれ三項目ある。

専門的・技術的職業への流入では同一大分類間移動が五〇%、事務的職業が一九%、販売の職業が一〇%を

しめる。事務的職業への流入では同一大分類間移動が四五%、販売の職業と専門的・技術的職業がそれぞれ二〇%、一六%をしめる。

第二は流入元に広がりが見られ、その中の特定の流入元から集中的に流入するケースである。この類型に該当するのは、「販売の職業」、「生産工程の職業」、「建設・採掘の職業」である。これらの大分類には流入率一〇%以上の大分類がそれぞれ四項目ある。

同一大分類間移動をみると、販売の職業では三三%、生産工程の職業では三〇%をしめる。建設・採掘の職業では同一大分類間移動（二四・五%）よりも専門的・技術的職業からの流入のほうが多い（二七・六%）。

第三は流入元が限定的であって、それらの流入元から分散して流入するケースである。これには「サービスの職業」が該当する。専門的・技術的職業、事務的職業、販売の職業からそれぞれ一〇%以上流入し、同一大分類間移動は二二%をしめる。

第四は流入元に広がりが見られ、それらの流入元から分散して流入するケースである。これには「保安の職業」、「農林漁業の職業」、「運搬・清掃・包装等の職業」が該当する。これらの大分類には流入率一〇%以上の大分類がそれぞれ五項目ある。

大分類レベルの流入は同一大分類間の移動が中心になっているのか、それとも主として異なる大分類間で行われているのかは大分類によってまちまちである。

大分類ごとに流入率をみると、同一



大分類間の流入率がもつとも高いのは、専門的・技術的職業や事務的職業など四つの大分類である。他方、サービスの職業、運搬・清掃・包装等の職業など六つの大分類では異なる大分類間の流入率ももつとも高くなっている。

流入率について全体に共通しているのは、いずれの大分類においても専門的・技術的職業、事務的職業、販売の職業からの流入率が高いことである。

大分類レベルの移動が同一大分類間で行われているのか、あるいは異なる大分類間で行われているのかを問わず、一定基準以上の流入数・流入率に該当する大分類間移動を流入率の高い順に並べると、三つの大分類（保安の職業、農林漁業の職業、運搬・清掃・包装等の職業）を除いてそれ以外の大分類では同一大分類間移動が上位に並び、これらの大分類では同一大分類からの流入が主要な流れになっていることを示

している。

中分類間の流入

中分類間の職業移動（流入）をみる視点はふたつある。ひとつは同一大分類間移動に焦点を合わせて大分類別の中分類での移動を把握することである。

この視点に立つと、全体としては同一中分類間での移動よりも異なる中分類間での移動のほうが広くみられる。しかし、主な中分類間移動が同一中分類間で行われているのか、それとも異なる中分類間で行われているのかは大分類によって異なっている。

専門的・技術的職業、事務的職業、生産工程の職業など四つの大分類では異なる中分類間移動のほうが広くみられ、これとは逆に、サービスの職業、建設・採掘の職業、運搬・清掃・包装等の職業では同一中分類間移動のほうが優勢である。

もうひとつは異なる大分類間移動に絞ってその中分類レベルでの移動を明らかにすることである。

さまざまな種類の中分類間移動がみられるが、その特徴のひとつは細分類「一般事務員」の流入量が多く、その流入先の範囲が広いことである。一般事務員は専門的・技術的職業、販売の職業、サービスの職業だけではなく、生産工程の職業にも流入している。

大分類間移動が同一大分類間での移動なのか、あるいは異なる大分類間での移動なのかを問わず、一定基準以上の流入数・流入率に該当する中分類間移動を流入率の高い順に並べると、同

図表3 大分類別流入率・流出率

ひとつ前の職業(流入元)→今の職業(流入先)		流入数	流入率(%) ¹⁾	ひとつ前の職業(流出元)→今の職業(流出先)		流出数	流出率(%) ¹⁾
B ¹⁾	B 専門的・技術的職業 (9,653) ²⁾	4,855	50.4	B ¹⁾	B 専門的・技術的職業 (8,121) ²⁾	4,869	60.1
C		1,882	19.5	H		1,047	12.9
D		1,000	10.4	B		1,889	31.2
B	C 事務的職業 (2,925)	470	16.1	C	C 事務的職業 (6,044)	1,335	22.0
C		1,335	45.6	D		833	13.7
D		595	20.3	E		800	13.2
B	D 販売の職業 (3,097)	461	14.9	H	D 販売の職業 (4,509)	688	11.3
C		833	26.9	B		1,002	22.2
D		1,047	33.8	C		595	13.2
E	E サービスの職業 (2,997)	331	10.7	D	E サービスの職業 (2,284)	1,047	23.2
B		516	17.2	E		604	13.4
C		800	26.7	H		710	15.8
D	F 保安の職業 (289)	604	20.2	B	F 保安の職業 (267)	558	24.4
E		665	22.2	D		330	14.4
B		66	22.8	E		664	29.1
C	G 農林漁業の職業 (547)	29	10.0	H	G 農林漁業の職業 (116)	293	12.8
D		51	17.6	B		58	21.7
F		35	12.1	E		27	10.1
H	H 生産工程の職業 (4,616)	41	14.2	F	H 生産工程の職業 (3,499)	35	13.1
B		134	24.5	H		47	17.6
C		111	20.3	B		34	29.3
D	I 輸送・機械運転の職業 (804)	99	18.1	G	I 輸送・機械運転の職業 (868)	16	13.8
H		84	15.4	H		16	13.8
B		1,047	22.7	B		919	26.3
C	J 建設・採掘の職業 (843)	688	14.9	H	J 建設・採掘の職業 (621)	1,398	39.9
D		710	15.4	B		130	15.0
H		1,398	30.3	C		98	11.3
B	K 運搬・清掃・包装等の職業 (1,015)	166	20.6	H	K 運搬・清掃・包装等の職業 (517)	145	16.7
C		118	14.7	I		164	18.9
D		99	12.3	K		101	11.6
H	I 輸送・機械運転の職業 (804)	88	10.9	B	J 建設・採掘の職業 (621)	112	18.0
I		164	20.4	H		165	26.6
B		233	27.6	J		126	20.3
D	J 建設・採掘の職業 (843)	118	14.0	B	K 運搬・清掃・包装等の職業 (517)	102	19.7
H		120	14.2	H		107	20.7
J		122	14.5	K		83	16.1
B	K 運搬・清掃・包装等の職業 (1,015)	134	13.2	(注) 1. B~Kは大分類の符号である。			
C		176	17.3	2. 括弧内の数字は回答者数である。			
D		180	17.7	3. 流入率(流出率)10%以上の移動だけを掲載した。			
H	I 輸送・機械運転の職業 (804)	184	18.1				
I		101	10.0				

(注) 1. B~Kは大分類の符号である。
 2. 括弧内の数字は回答者数である。
 3. 流入率(流出率)10%以上の移動だけを掲載した。

前職から流出した人

一大分類間での中分類間移動のほうが異なる大分類間での中分類間移動よりも移動の種類・量が多い。この意味で中分類間移動は同一大分類間における移動が主な流れになっている。

図表3の右側の表は、ひとつ前の職業を起点にして、現在の職業に流出した人を大分類レベルで整理したものである。

大分類間の流出

流出はその方向と量によって四つの類型に大別できる。

第一は流出先が限定的であり、その流出量が多いケースである。これには「専門的・技術的職業」と「生産工程の職業」が該当する。

専門的・技術的職業の流出先のうち流出率が一〇%を超える大分類は二つだけであり、そのうち同一大分類間移動は全体の六割をしめる。生産工程の職業でも流出率一〇%以上の大分類は二項目だけであり、同一大分類間移動が全体の四割をしめる。

第二は流出先に広がりが見られ、その中で特定の大分類に集中的に流出するケースである。「事務的職業」、「販売の職業」、「サービスの職業」がこれに該当する。これらの大分類ではいずれも同一大分類間移動の比率が特に高い。

事務的職業では流出率一〇%以上の大分類が五項目あり、同一大分類間移動は二二%をしめる。販売の職業でも

流出率が10%を超える大分類は五項目あり、同一大分類間移動は二三%である。サービスの職業では流出率10%以上の大分類は四項目、同一大分類間移動は二九%である。

第三は流出先が限定的であり、それらの流出先に分散して流出するケースである。これに該当するのは「農林漁業の職業」、「建設・採掘の職業」、「運搬・清掃・包装等の職業」である。これらの大分類では流出率10%以上の大分類はいずれも三項目だけである。

第四は流出先に広がりが見られ、それらの流出先に分散して流出するケースである。これには「保安の職業」と「輸送・機械運転の職業」が該当する。流出率10%以上の大分類は前者に四項目、後者に五項目ある。

大分類ごとに流出率をみると、同一大分類間の流出率があつとも大きい大分類は専門的・技術的職業や販売の職業などの五項目、他方、異なる大分類間の流出率があつとも大きい大分類は事務的職業や運搬・清掃・包装等の職業などの五項目である。

流出率について全体に共通しているのは、いずれの大分類においても専門的・技術的職業と生産工程の職業への流出率が高いことである。

大分類レベルの移動が同一大分類間移動なのか、あるいは異なる大分類間移動なのかを問わず、一定基準以上の流出率・流出率に該当する大分類間移動を流出率の高い順に並べると、三つの大分類（保安の職業、農林漁業の職業、運搬・清掃・包装等の職業）を除いてそれ以外の大分類では同一大分類間移動が上位に並び、これらの大分類

では同一大分類への流出が主要な流れになっていることを示している。

中分類間の流出

同一大分類内における中分類間移動（流出）をみると、概ね同一中分類間移動が主要な流れになっている。しかし同一中分類間移動と異なる中分類間移動のいずれが優勢な移動であるのかは大分類によつて異なっている。

専門的・技術的職業、サービスの職業、運搬・清掃・包装等の職業など五つの大分類では同一中分類間移動が優勢であり、他方、販売の職業、生産工程の職業など三つの大分類では異なる中分類間での移動のほうが広くみられる。

次に異なる大分類間における中分類間移動をみると、その特徴のひとつは細分類「一般事務員」の流出量が多く、かつ流出分野が広いことである。流出先は、専門的・技術的職業、販売の職業、サービスの職業だけではなく、生産工程の職業にも及んでいる。

大分類間移動が同一大分類間で行われているのか、あるいは異なる大分類間で行われているのかを問わず、一定基準以上の流出率・流出率に該当する中分類間移動を流出率の高い順に並べると、同一大分類間での中分類間移動のほうが異なる大分類間での中分類間移

動よりも移動の種類・量が多い。この意味で中分類間移動は同一大分類間における移動が主な流れになっている。

類似性指標としての職業移動

大分類レベルにおける職業移動は、流入元や流出先の大分類によつて流入率・流出率に大きな違いがみられたが、全体としてみると「保安の職業」、「農林漁業の職業」、「運搬・清掃・包装等の職業」の三つの大分類を除くそれ以外の七つの大分類では同一大分類間移動の比率が一番あるいは二番目に高くなつており、同一大分類間移動が主要な移動パターンになっていた。

また、中分類間移動は、流入・流出のいずれにおいても同一大分類間での移動が異なる大分類間での移動よりも広範に行われ、同一大分類間での中分類間移動が優勢な流れになっていた。

したがって職業移動の多寡を職業の類似性を表す指標と考えると、今回の分析に使用した厚生労働省編職業分類

のうち上に指摘した三つの大分類を除くそれ以外の大分類はそれぞれ類似性の高い職業で構成されているとみることができると。

今回の分析で使用した「職業移動の多寡」という変数は、厚生労働省や総務省の職業分類に適用されている類似性基準と比較した場合、類似性の大凡の度合いを数量的に把握できるという長所がある一方、類似性を説明する理由にはなりえないという限界もある。

このため職業間の類似性を表す一般的な指標として用いるのではなく、その長所を生かせるような特定の用途に限定した使い方をすべきであろう。たとえば、特定職業分野の全般的な職業構成を検討したり、変更したりする場

プロフィール

西澤 弘（にしざわ ひろし）

JILPT主任研究員

心理学専攻。当機構における最近の研究成果は、「職業分類の改訂記録・厚生労働省編職業分類の二〇一一年改訂」（資料シリーズNo.101、二〇一二）、他。

